



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな館 93

五毛座

天空の里の歌舞伎小屋



▲国の登録有形文化財に指定されている五毛座

ひと口メモ

飯地町には、2008（平成20）年10月に、五毛座と同じく、国の登録有形文化財に指定された旧市役所飯地事務所庁舎とサイレン塔がある。1954（昭和29）年の昭和の大合併時に建設されたもので、どちらも市民生活に身近な建物として親しまれている。

飯地町の五毛座は、もともと公民館兼地芝居小屋として1951（昭和26）年に建設された木造2階地下1階建て、建築面積427平方メートルの建物。内部には、両袖花道を備えた舞台があり、客席として平土間、1階・2階（2階は）敷席が設けられている。また公民館の設備としては、集会所の和室と大広間がある。2010（平成22）年1月に、旧飯地公民館として国の登録有形文化財に登録された。

4月の第2日曜日、太田神社の例祭時に隔年で飯地五毛座歌舞伎保存会が歌舞伎公演を行う。次の公演は、来年に行われる予定。



▲隔年で行われる歌舞伎公演

中川とも

てんいむぼう
天衣無縫の女絵師

えな自慢
94
えな人



▲恵那高校で多くの生徒に絵を教えた

ひと口メモ

23年間を当市で過ごした「とも先生」の思い出を温める年輩者は多い。恵那高校の美術の授業では「絵は1年間で1枚描けばよい」と言われた。浄瑠璃を聞かせてもらった。ニックネームは、「ライオン」。ボサボサの髪が由来だったそうだ。

当市を第二の故郷として活躍した画家。主に歌舞伎の絵を好んで描いた。1890（明治23）年、中津川市生まれ。1908（明治41）年、中津川尋常高等小学校の訓導となるところから、画業を志す。35歳で岸田劉生の絵画に出会い、影響を受ける。41歳で大垣高等女学校を退職、画業に専念。1951（昭和26）年から1965年まで恵那高等学校の美術科講師を務め、多くの教え子に絵を描く本当の楽しみを伝えた。この間、画業の中心が文楽や歌舞伎を題材としたものになる。恵那高等学校退職後、その画業と生きざまがテレビや新聞などに数多く取り上げられた。1982（昭和57）年、92歳で没。



▲中川とも作品「女形往来」（おやまおうらい）

次号は4月15日号
発行日は4月15日(月)です

広報えな No.194
2013年（平成25年）
4月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係
〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
☎(0573)26-2111 / ☎25-6150 / (IP電話) 050-5808-9521
http://www.city.ena.lg.jp/ ☒ info@city.ena.lg.jp

『広報えな』4月1日号、1部当たりの印刷経費は約14.0円(税込み)です。



◀市メール配信サービス
(登録用QRコード)
市WEB版文字放送システム▶
(閲覧用QRコード)
口問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

